西之内町地車新調
実行委員会通信

2021年
7月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072-444-7712

西之内町新調地車
彫刻の物語背景と紹介（3）

ようやく長い梅雨の時期も終わり毎日暑い日が続いております。窓辺につるした風鈴の音色に心和ますこのごろです。西之内町の皆様におかれましては、気温の急激な変化で体調を崩されないようにお気を付けください。

さて、今回も新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。難波戦記の中、大坂冬の陣では徳川家が思うように戦況を優位にできず、朝廷の仲介による和睦となります。合戦に参加していた武将も思わぬ和睦で急にすることがなくなり、時間をもてあますようになりました。徳川方に参列していた名だたる武将のなかで伊達政宗に逸話があり、新調地車でその場面を採用しております。

改めまして伊達政宗についてご紹介します。出羽米沢城主・伊達輝宗の長男として生まれます。母は出羽山形城主・最上義光の妹です。幼名・梵天丸。五歳のときに疱瘡（天然痘の別称。伝染病で高熱を発し、あばたなどの後遺症を残す）にかかり、右目を失明し、その後十一歳の時に元服します。１５８４年、十八歳の時に伊達家の家督を譲られます。家督相続した政宗に、安達郡の大内定綱が仕えるという約束したのにもかかわらず、それを反故にしたので政宗は大内領に攻め込みます。ここで大内氏一族を撫で斬りし、周辺領主を恐怖で震え上がらせました。

１５９０年、豊臣秀吉が小田原征伐に来ると、政宗は迷いましたが秀吉に降伏します。その際、旧芦名領を取り上げられてしまいます。

領地を没収された大崎・葛西の旧臣達が、新領主・木村吉清の政治に不満を持つ農民達と一緒になって大規模な一揆を起こしたので、政宗は蒲生氏郷と共に征伐に向かおうとしました。しかしここで一揆を煽動しているのは政宗だということがばれて上洛し秀吉に弁明しています。そのおかげで改易は免れましたが、領土の一部が没収され、揉めていた大崎と葛西の旧領地を新たに与えられることになりました。

朝鮮出兵では、１５９３年に朝鮮半島に上陸していますが半年ほどで帰っています。１５９５年、豊臣秀次が謀叛を企んでいるという理由で切腹させられ、秀次と親しかった政宗にも謀叛に荷担しようとしていたという疑惑がかかりますが、ここでもうまく弁明して事なきを得ます。

１５９８年に秀吉が他界すると徳川家康に接近し娘・五六八姫と家康の六男・辰千代（松平忠輝）を婚約させます。

関ヶ原の戦いでは、徳川家につき最上領から撤退する上杉景勝軍を追撃するなど貢献しますが、同じ東軍の南部領で一揆を煽動していたことがばれてしまい、たったの2万石しか加増されませでした。

慶長１９年（１６１４年）の大坂冬の陣（大坂の役）では大和口方面軍として布陣しました。和議成立後、伊達軍は外堀埋め立て工事の任にあたります。

伊達政宗は、講談でも人気のある武将であり、『政宗の堪忍袋』などは有名なお話です。ここで少しだけ内容を説明します。

三代将軍家光の時代の話。旗本連中は、伊達政宗をもてなす役目を言いつかります。ふだんから大名のことを憎々しく思っている旗本にはこれが面白

伊達政宗の甲冑
「黒漆五枚胴具足」
重要文化財

くありません。そこで、兼松又四郎という者に政宗を殴らせることにしました。接待をする前、土井大炊頭（おおいのかみ）の屋敷の廊下で又四郎は政宗をポカポカと殴ります。しかし政宗は動じません。

宴席で政宗は又四郎を呼びつけて『曾我物語』を話し始め、その中の犬房丸（いぬぼうまる）の逸話から、どうして叩かれても手出しひとつ出来なかったを語りました。（講談での話）

伊達政宗が登場するのは、新調地車にて大坂冬の陣での話です。和議が成立して諸大名は暇になったため、陣中で出会い話をしていたが、その際に伊達政宗のことが話題に登りました。

ある人の陣で景品を賭けて香合わせ（種々の香を焚いて、その名を嗅ぎ当てる遊び）が催されていた時、政宗が陣中見舞いに来ました。

「いいところに来られた。一緒に香合わせをしましょう」

誰かが誘うと、政宗は加わることにしました。戦の最中だったため、景品には鎧・障泥（馬の腹に泥がかからないようにするもの）・矢などが出品されましたが、政宗だけが身に着けていたひょうたんを出しました。

皆が「変わった景品だな」と思って、選ぶ者がなかったため、主催者の家来が仕方なくひょうたんを取った。やがて香合わせが終わって政宗が帰る時に・・・・。

これ以上はネタバレとなりますので、完成された地車をご覧いただきたく思います。

山本師は、このお話を丁寧に彫り物として表現いただいております。合戦から和睦となり武将たちの顔の表情も、個性豊かに表現され洒落の効いた作品となっております。また、本陣として構えている家屋の庭先の木々も手入れされた風流なものであるという表現もされており、人物以外にも楽しむポイントは大いにあります。

難波戦記の中で、和睦となったときに戦国武将たちの人間性が出ている逸話として、今回はこの物語を採用しております。完成をお楽しみにお待ちください

伊達政宗

新調地車の彫り物 進捗報告

7月現在、先月に引き続き土呂幕の制作中です。左右の土呂幕の前板の荒彫りは完了しており正面に取り掛っております。

正面土呂幕全体の厚みは約1尺半で最近の新調地車では一般的な大きさではありますが、ここにひと手間をかけており、完成時にはさらに奥行きを感じる仕上がりとなる予定です。風景としての枝葉についても手間のかかる植物を配置しており、武将の逸話に繋がっております。

枝葉の非常に細かいところは本物をご覧いただき堪能願いたいところです。

（製作途中ですので、仕上がりはさらに繊細なものです。）

建築の欄間とは異なり、正面、左右から見ても人物、木々に関して板の厚みを最大限利用した彫刻となっております。

装飾品の進捗報告

現在、町名旗等の旗の生地が織り上がり、刺繍への工程に移行します。

町名旗等に関しては、重厚な刺繍の手法を依頼しており、これから針を一つ一つ手作業で生地に通していく作業となります。その他、纏や吹き散りなども全体工程を調整しながら進めていき、来年中には仕上がる予定となっております。

新調委員の独り言

夏が本格的に到来しました。今年の祭りもどのような開催となるかわかりませんが、町内の皆様、祭礼団体の皆様には、多方面にわたりご協力願います。